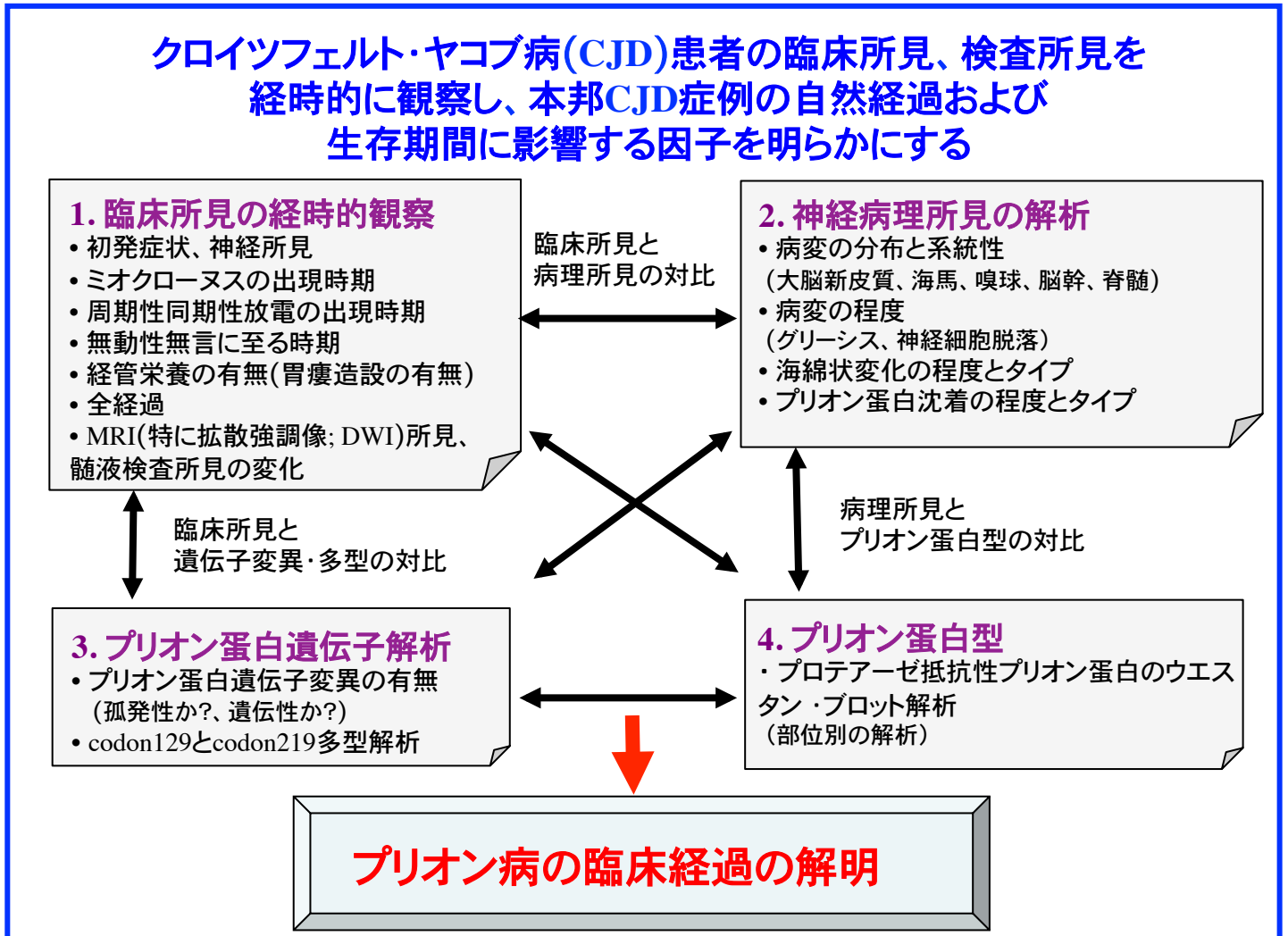


クロイツフェルト・ヤコブ病の臨床経過に関する検討

研究分担者： 愛知医科大学 加齢医科学研究所 岩崎 靖

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)患者の臨床所見、検査所見を経時的に観察し、本邦CJD症例の自然経過および生存期間に影響する因子を明らかにする



解説

1. プリオン蛋白沈着と海綿状変化があり、DWI高信号を呈するが臨床症候を認めないCJD前駆期(prodromal stage)の存在、プリオン蛋白沈着があるものの海綿状変化が出現しておらず、DWI高信号も示さないCJD前臨床段階(preclinical stage)の散在が推定された。
2. 無動性無言状態に至る前であれば、神経細胞はほぼ残存しており、抗プリオン病薬の投与による病態進行抑制効果が期待できると考えられた。